



本校の研究は発信型のコミュニケーション能力の育成を目指してスタートしたわけですが、研究開発にとりかかって間もない頃は、イベントだらけでした。つまりエッセイコンテストだの、スピーチコンテストへの参加だの、講演会だのといったことのみで気を取られていました。このことは、他の多くのセルハイ校でも同様で、文科省がセルハイ校を招集して開催される「連絡協議会」の中でも「イベントのみの事例報告が多すぎて、これではテーマパーク化している。日々の授業をどう改善するかといった視点に欠けている。」といった講評がなされました。

本校でもこのことを受け、2年目になっておりましたが、授業中の活動の充実、すなわち「どの活動を実践すれば、発信型コミュニケーション能力の育成につながるのか、ということに研究の焦点が絞られました。ここに本校が開発した学習活動中心のシラバス開発の原点があります。●それぞれの科目に見合ったタスクを厳選し、それぞれのタスクに目標をきちんと設定し、そこから各々の評価規準を策定していったわけです。●そして、科目内で行われる様々な学習活動の統合される場が I T C であるという位置付けのもと、I T C はシラバスの中に明確に位置付けられたのです。また、シラバスの中では、どの学習活動が I T C の中での活動と関連があるのかも分かるように示しました。